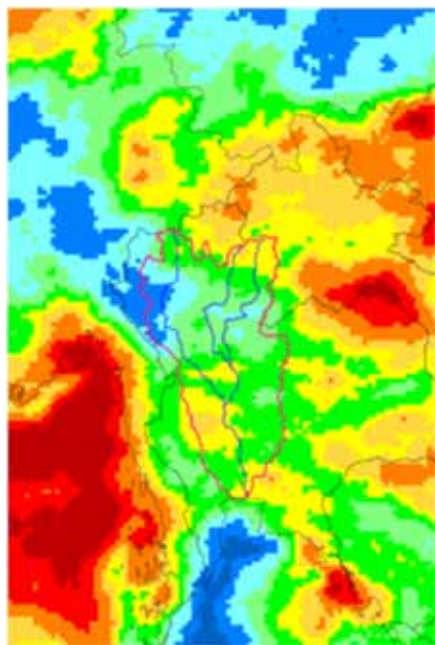


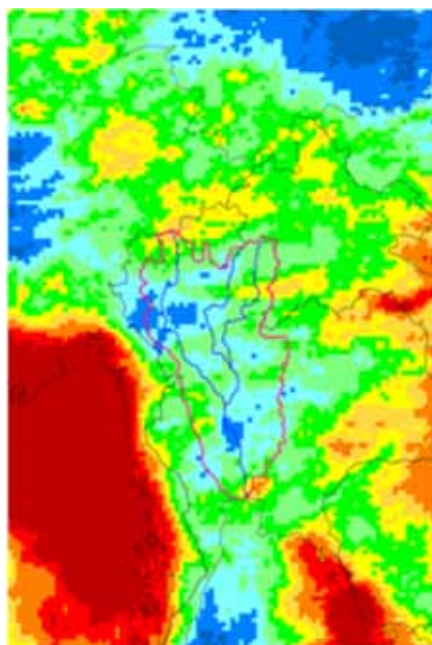
チャオプラヤ河流域雨期降雨量(7月～9月)

DATA/ GSMap MVK(2008)
GSMap NRT(2009-2011)

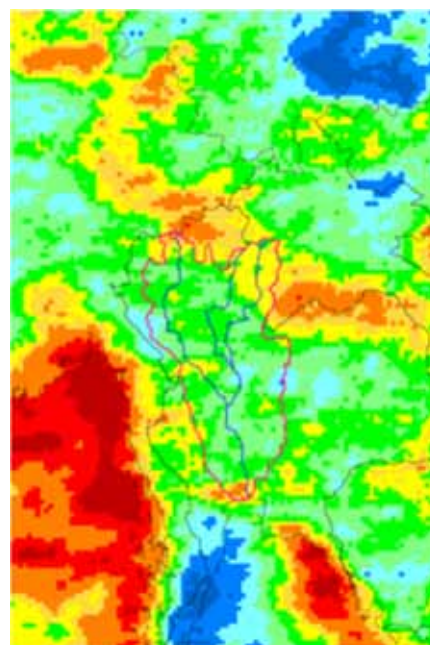
2008



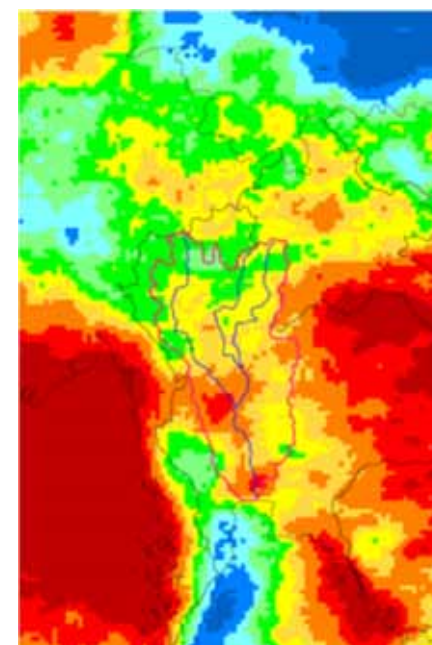
2009



2010



2011



Basin mean precipitation in Chao Phraya River Basin from July to September

518mm

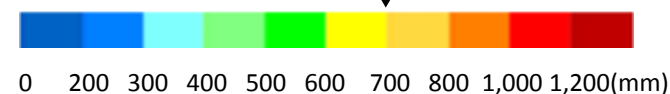
424mm

527mm

710mm

Average(Bangkok)

本解析は宇宙航空研究開発機構(JAXA)が作成した衛星による「世界の雨分布速報」のデータ(GSMap降雨プロダクト)(<http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMap/>)を利用して、
社団法人国際建設技術協会及び株式会社建設技術研究所により実施



チャオプラヤ川氾濫アニメーション

2011年洪水

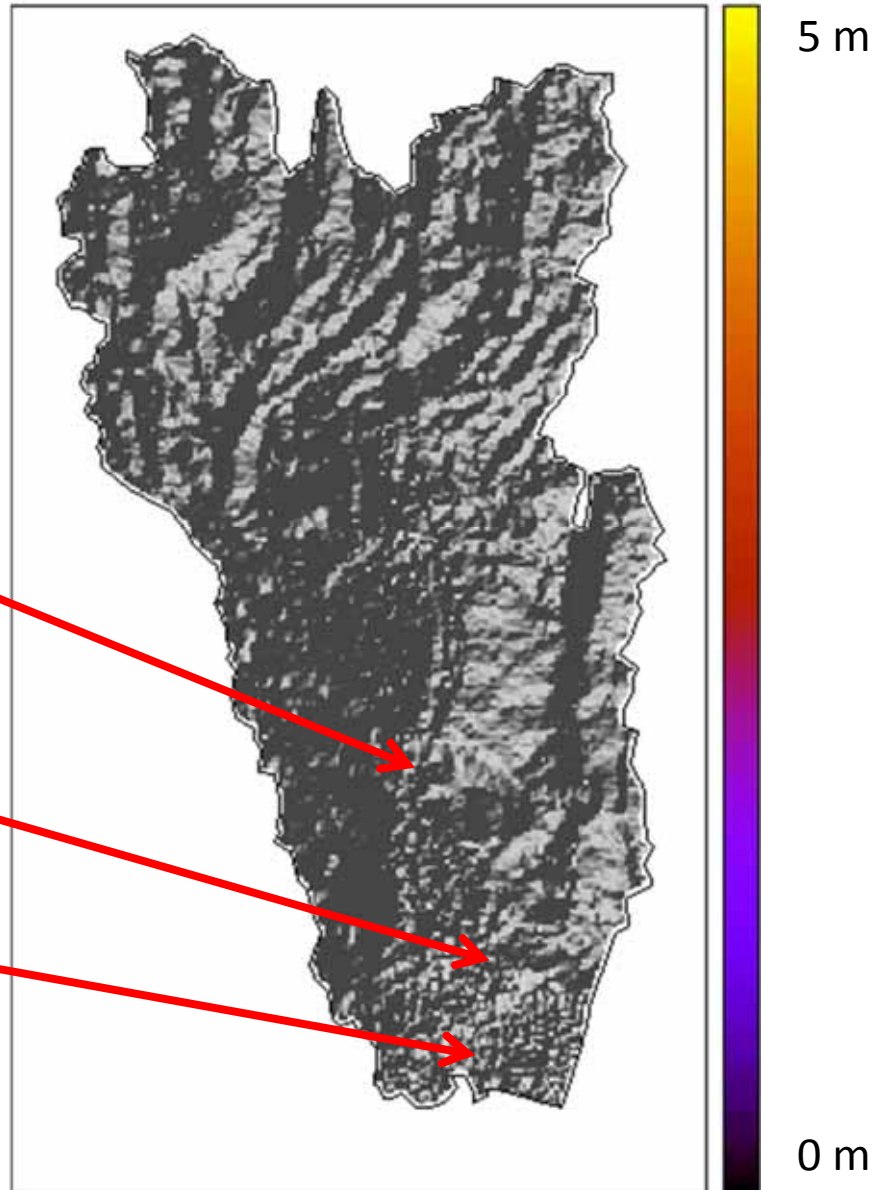
7月1日～

11月30日

ナコンサワン

アユタヤ

バンコク



1 日目 : 7/1

31 日目 : 8/1

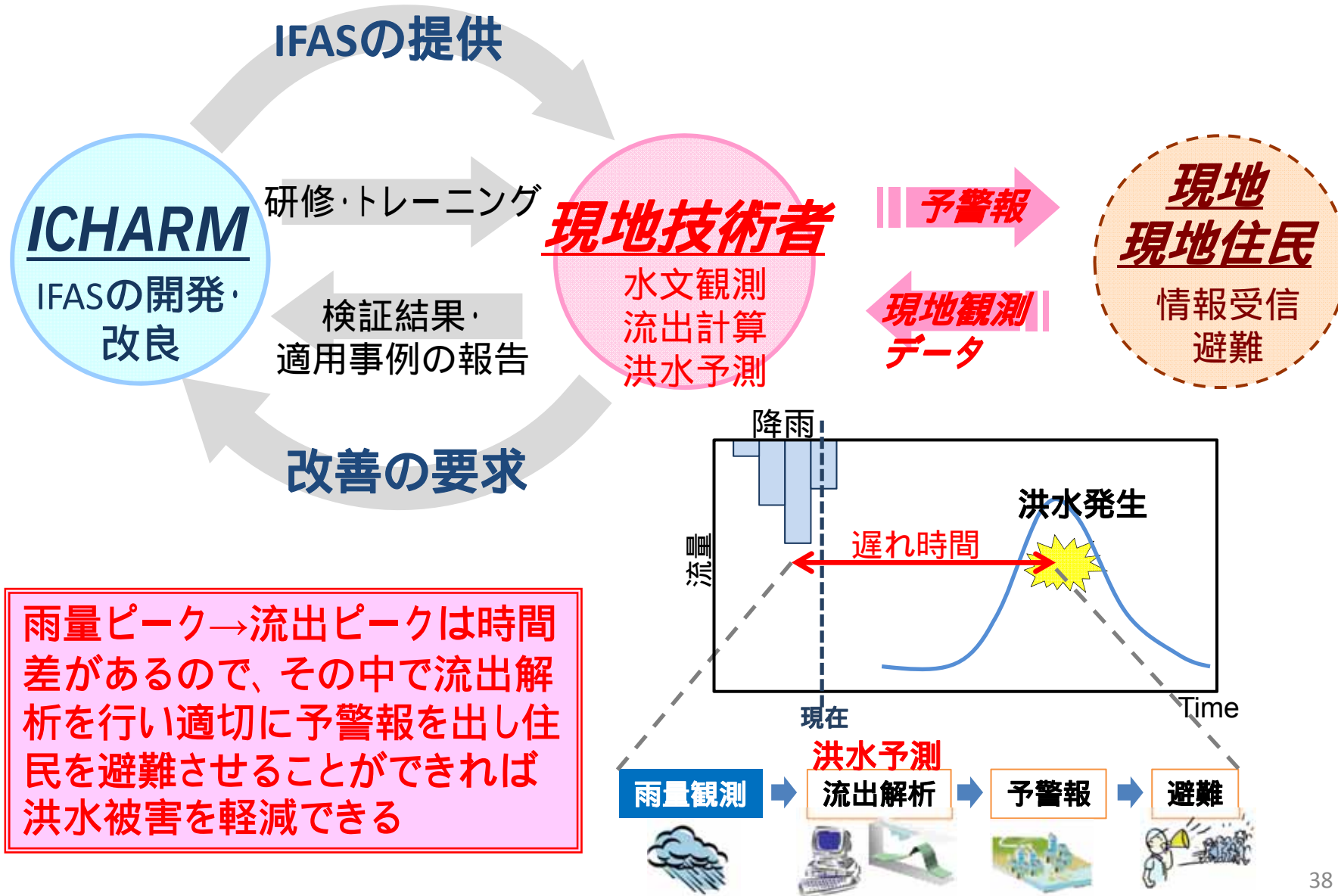
62 日目 : 9/1

92 日目 : 10/1

123 日目 : 11/1

152 日目 : 11/30

IFASを活用した現場経験の共有



ADB技術協力プロジェクトにおけるインドネシアソロ川への導入

- 2010年3月、2010年12月、2011年7月、2011年11月、現地技術者及びADB関係国技術者を対象にトレーニングワークショップを開催
- 2011年11月 試験運用開始
- これまでの活動
 - 水文観測データ(時間雨量、水位等)、主題図(土地利用図等)の収集
 - 衛星雨量補正手法の改良
 - IFASのリアルタイムシステムとしての改良
 - ✓ データ取込・計算・出力の自動化
 - ✓ 計算結果が基準値を超えたときのアラーム発出
- 現地コミュニティと連携した防災訓練(2011)
 - IFASを活用した住民の避難訓練を実施



2007年12月の洪水



国産衛星技術を活用した 防災協力の国際展開

アジアの防災と持続可能な開発のための 宇宙技術とGIS活用の国際5年 (2012-2017)

- ESCAP総会決議(日本が提案し実現) -

- 目的: アジアの全ての国連加盟国が、防災と持続可能な開発のために宇宙技術とGISを活用するための努力をアジア全域で行う
- 加盟国会合により、この国際5年のためのアクション・プランを2012年中に策定する
- 全ての加盟国、関係機関が次の活動を含む国際5年の活動に参加するよう呼びかける
 - センチネルアジア、準天頂衛星システム(QZSS)等推進
 - 国際ワークショップの開催
- ESCAP事務局長に活動支援と国際5年実施報告を求める

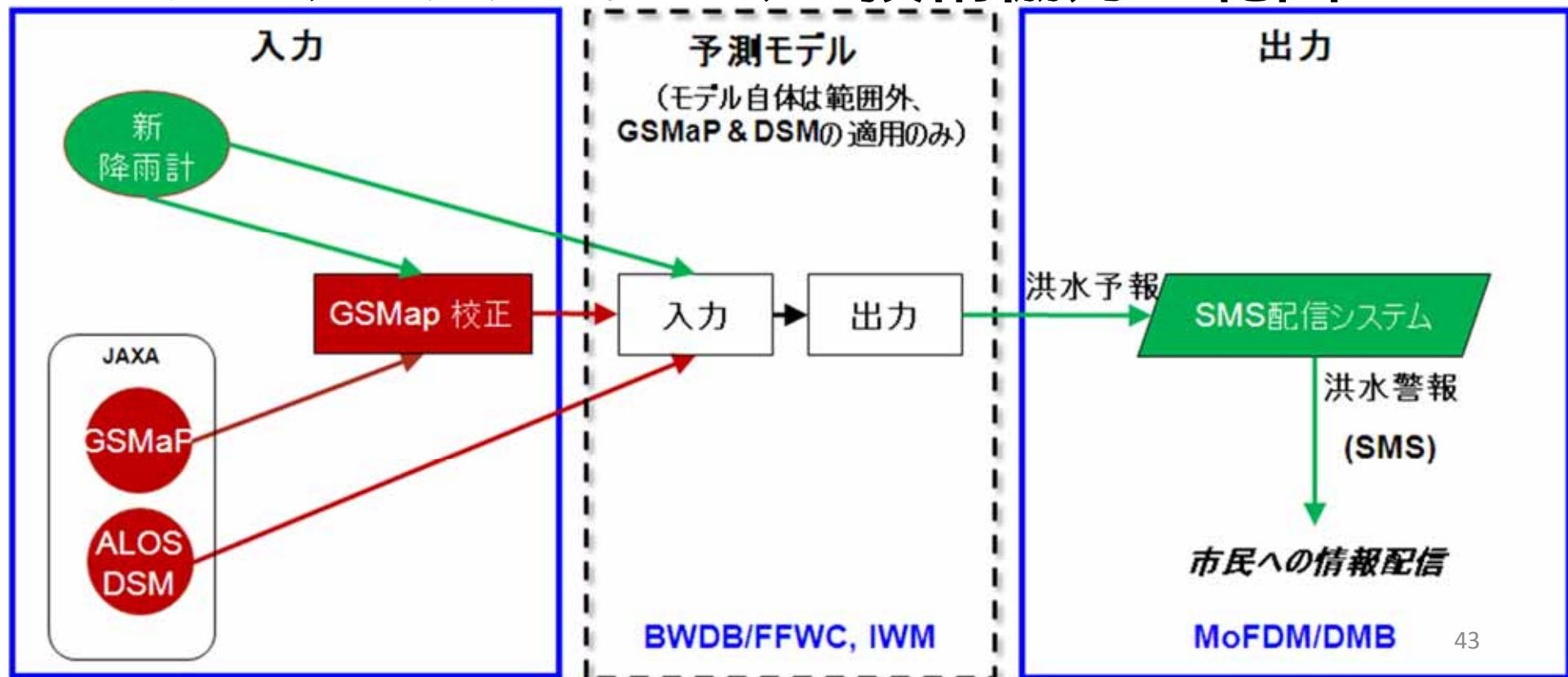
GISを活用したアジア防災協力 (2012-2014 : JAXA, ICHARM, 東京大学)

- **アジア各国にGISベースの災害予測・対応・配信システムを提供**
- **アジア開発銀行と協力・投資プロジェクトに連結**
- **JAXA、東京大学、ICHARMが技術提供**
- **各国防災機関、宇宙機関、大学・研究機関と連携**

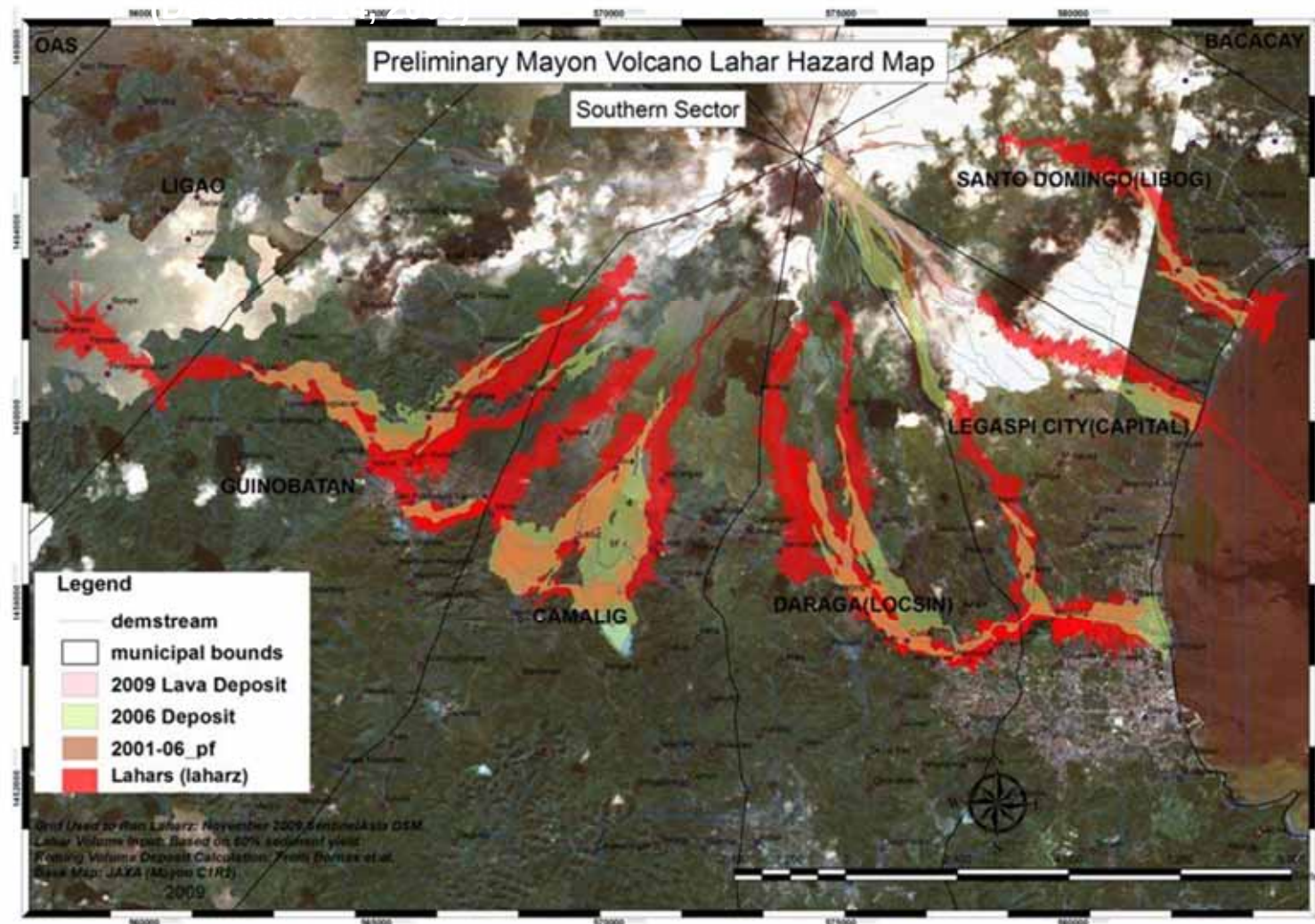
バングラデシュ洪水予測・配信プロジェクト (ADB,JAXA,ICHARM,東京大学)

- バングラデシュ主要河川の洪水予警報に衛星データを活用
- バングラデシュ民間携帯電話会社と協力・連携
- 携帯電話メッセージにより警報を市民に直接発信

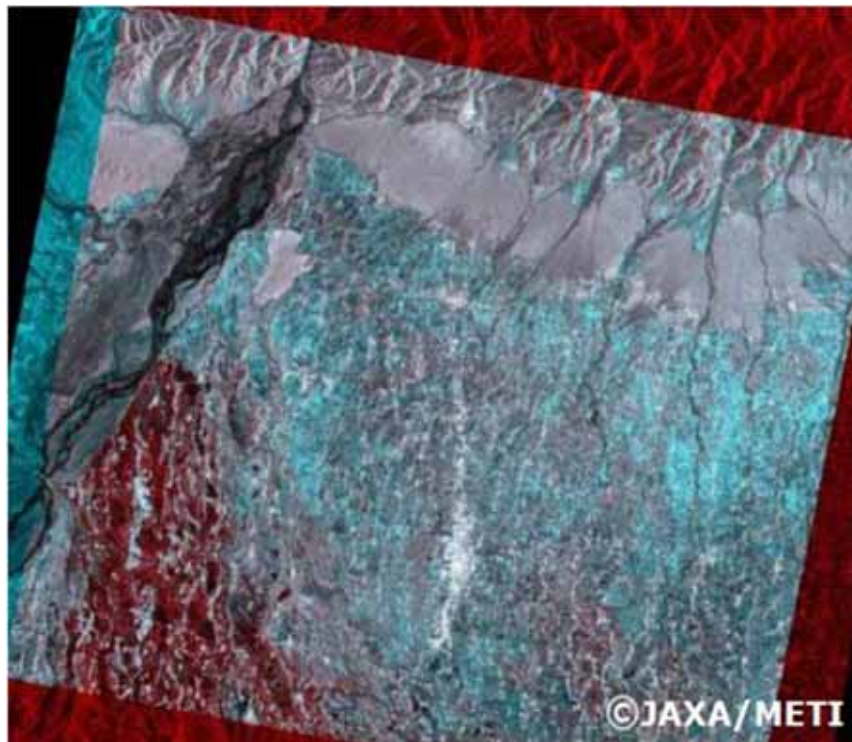
・ バングラデシュにおける技術協力の範囲



フィリピン・ラハール火山土石流予測マップ(JAXA)



(このマップに基づき約4万人が避難)



Emergency Observation by ALOS (Aug 25, 2008)

2008ネパール洪水 損害予測マップ(JAXA)

